

《まつさか若者クラブ～MYC～2nd season 感想》

【事業への意見】

(参加者を増やすためにはどうすればよいか。)

- ・若い世代がもっと多くないと若い参加者が委縮してしまい、参加しても続かない。若い世代への PR 活動がもっと必要。
- ・三重県が主催している「ミエミライ」のように、一回で完結するようにして毎回参加者を募集したほうがよい。
- ・一年刻みがよく、年 5～6 回の開催が適切なのではないか。ファシリテーターを迎えて、その方のネットワークで参加者を募るといった方法はどうか。
- ・開催時間を短時間（毎回 2 時間以内）にし、反対に開催回数を以前よりも増やす。開催内容については、毎度初めに参加者が楽しめるゲームを少し入れたのち、本題に入っていくと良いと思う。MYC 開催後、MYC ワイワイ会といったネーミングで、参加者の懇親を深めるといったイベントを定期的に行うとよいのではないか。
- ・若手職員には参加を義務付ける、若しくはキャリアパスの一つとして有利になるものにするなどの工夫をすると、職員の参加者を募れるのではないか。

(若者クラブを PR するには。)

- ・学校へ直接 PR 活動を行う。
- ・「広報まつさか」に記事を掲載してもらおう。フェイスブック、インスタグラム等の SNS を活用する。大学や地域にポスター掲示を行う。
- ・高等学校等への出前授業を企画する。

【参加した感想】

- ・参加する中で、自分から積極的に行動する・学ぼうとする大切さや、討論の際の話の進め方などを学びました。その後自分自身、積極的に地域活動や研修などに参加するようになりました。また、日頃の自分の話し方を見直す機会になりました。
- ・15 名～25 名で 3～5 グループをつくれる程度の人数が適切なのではないか。

- ・もっと市職員が参加すべきではないか。(行政を受験する時点で、松阪市を動かしていきたいという想いを抱いているはず。)
- ・学生のみ、社会人のみでグループを構成して議論を進め、最後にすり合わせるという形をとればより多様な意見を抽出することができたのではないか。
- ・多くの学生の参加が見込まれるインターンシップにおいて、このような取り組みを実施するとよいのではないか。その際採用担当者が参加すれば、ワークショップでの言動から「ワークショップ」「コミュニケーション能力」「協調性」などの能力を観察でき、有能な人材の獲得に繋げることができると考える。